

# 胸部大動脈瘤

とりのわけ怖い病気といえは、心臓から全身に血液を送り出す大本の血管（大動脈）に異常な膨らみ（コブ）ができる大動脈瘤だろう。

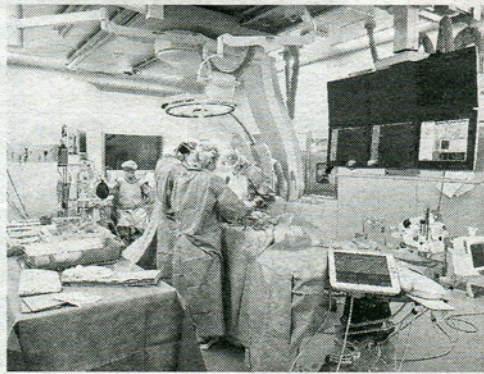
「自覚症状が何もないままコブが生まれ、知らないうちに直径5センチ、6センチ、7センチと大きくなる。そして前触れなく、突然、コブが破裂し、突然死する大動脈瘤の患者さんが後を絶ちません」

こう言うのは湘南鎌倉総合病院大動脈センター



**田中正史**（長門県）  
湘南鎌倉総合病院大動脈センター（神奈川県鎌倉市）

# バイブリッド手術で突然死を防ぐ



（金属の網目状チューブと人工布でできた人工血管）

**気鋭医師**  
**診たい**  
**フザ**  
連載23

管を患部で広げ、血管の内張りをすることでコブの破裂を防止する治療法です」

太ももの付け根の血管から細い管（カテーテル）を挿入、その先端を大動脈の患部まで到達させ、ステントグラフトを送り込む。患者の肉体的負担が極めて軽い。

「開胸手術だけでは体の負担が大き過ぎると判断した患者さんに、ステントグラフトを使った血管内治療を組み合わせて体に優しい治療を行うのがハイブリッド手術です」

ハイブリッド手術にはいくつかの方法がある。田中正史が得意とするのは広い範囲にわたる胸部大動脈瘤に対するものだ。

「まず胸の真ん中を切り開き、正中切開創と呼ばれる場所から肉眼で確認できる患部のみに人工血管を挿入、その先端を大動脈の患部まで到達させ、ステントグラフトを送り込む。患者の肉体的負担が極めて軽い。開胸手術だけでは体の負担が大き過ぎると判断した患者さんに、ステントグラフトを使った血管内治療を組み合わせて体に優しい治療を行うのがハイブリッド手術です」

管置換術を行います。見えない部分には人工血管を吹き流すように設置します」

約2週間後、吹き流した人工血管の内張りを加えるようにステントグラフトを使った血管内治療を行う。

「手術の傷が正中切開創に限定されるため、患者さんの肉体的負担が軽くなり、治療成績の向上に役立ちます」

## 手術は500件以上

一方、胸部大動脈から脳に向かう3本の血管が枝分かれする弓部にコブができてくるケースでは、

「デブランチ法は、あらかじめ開胸手術で脳に向かう血管の迂回路（バイパス）を人工血管でつく

り、ステントグラフト内挿術により枝分かれの分岐部も含めて患部の血管をすべて内張りしてしまう方法です」

重要なのは血管内治療をアラスしたハイブリッド手術が適切かどうかを一人一人の患者ごとに正しく見極めることだ。開胸手術のみの場合と異なり、術後に造影剤が必要なCTの定期検査などが生涯にわたって続くからだ。

その意味で病歴や高齢などさまざまな条件下で大動脈瘤の手術を500件以上手がけてきた田中正史が長年の判断ほどの確かなものはないのだ。

（医療ジャーナリスト・松沢実）

水曜掲載